

猪風来美術館 開館20周年記念 特別企画展

# 縄文スパイラルアート展

中国山地の山あいに立ち昇る縄文野焼きの炎——それは、古来の縄文文化を今の世に伝え未来を拓いていく狼煙。1万6000年前から1万3000年間もの長い日本列島に花開いた縄文文化。自然と共生し、生と死と再生への畏怖と祈りの世界観が表現された縄文の造形、その文様は“生命と魂のデザイン”です。猪風来美術館で縄文造形の“心と技”を学び育った縄文アーティストたちの芸術活動は、縄文土器・土偶の模写から体得したものを基盤として、〈復活 - 体得 - 創造〉の新たな縄文芸術として開花し世界中に発信を続けています。

縄文の“美と真理”は母なる大地・地球の万物生命と人類の在り方の根源を問い、一万年の過去から一万年の未来を見通して地球未来を照らす。この特別企画展では、猪風来美術館で学び育ってきた作家たちを中心に、20年間の諸芸術活動に関わってくださった作家たちにも参加を呼びかけました。村上原野の予感した縄文の新しい渦が新星のように生まれてくる「縄文スパイラル・ノヴァ」の時代が現実のものとなりつつあります。

どうぞご高覧ください。

## 【出品作家】

片桐仁  
小林武人  
堀江武史  
さかいひろこ  
真世土マウ  
猪風来  
村上原野  
土田哲也  
中山裕那  
小野真由美  
北村ますみ  
兵頭百華  
黒田知恵  
磯田耕治  
谷本明久  
松本千夏  
大瀬順一郎  
向井宏志  
むらかみよしこ

(順不同)

縄文スパイラル・ノヴァの時代

## 関連企画

7月6日(日)午後1時～3時  
「今を生きる縄文アーティストトーク」

(出品作家たちによる作品解説や縄文トーク)

2025年 7月1日(火)～10月31日(金)

猪風来美術館

新見市法曾陶芸館  
〒719-2552 岡山県新見市法曾609  
TEL/FAX 0867-75-2444  
<http://www.ifurai.jp/>

日本唯一の現代縄文美術館。  
縄文造形家・猪風来と村上原野  
の縄文野焼き作品など代表作を  
200点以上常設展示。生命と魂の  
デザイン～縄文スパイラルアート  
を現在直下で展覧。

【開館時間】午前9:30～午後5:00  
【休館日】月曜日(祝日は開館し翌日休館)  
(冬期12月～2月は月・火曜日)  
【観覧料】一般400円/高校生200円



# 「縄文スパイラルアート展」 ARTIST PROFILE

古来の縄文に根ざしつつ、現代の新縄文スタイルの表現者たちが育ってきています。大自然と宇宙の生命波動、生と死と再生への畏怖・祈りの始原のアート・縄文に学びつつ、今を生きる己の感性で新時代の美を求めていく。この新縄文スタイルの表現は、素材を土に限らず新素材と技術を用いて、独自の幅広いジャンルを拓こうとしています。



片桐仁

1973年埼玉県出身。多摩美術大学在学中に小林賢太郎と共にラーメンズを結成。現在は舞台やテレビドラマ、ラジオなどを中心に活躍中。縄文芸術を愛してやまない粘土造形家として全国で作品展も開催。2023年猪風來美術館「縄文の祭典」で「片桐仁」×「猪風來」が期間限定でコラボする縄文アートワークショップや縄文アート作品展を展開。



村上原野

北海道生まれ、縄文造形家  
大自然と宇宙の波動を内包した1万年の始原のアートに軸足をおき、縄文の心に寄り添いながら現代に生きる己の内なる縄文を造形する。作品は大自然と大地から湧き立つ豊饒なる精気・靈氣をおおらかに表象した生命のドラマを感じさせるもので、緻密で重層的に渦巻く文様表現の創造性は圧巻である。



土田哲也

広島県福山市出身（1947年生まれ）  
縄文造形家  
縄文芸術一筋50年。古来の縄文技法による縄文アートの創始者であり縄文野焼き技法の第一人者。1986年より北海道にて窪穴住居と自給自足の縄文暮らしの中縄文造形作品多数創作。2005年岡山県新見市に現代縄文アートの猪風來美術館を開館し旺盛に創作活動を展開、「生命と魂のデザイン」である縄文芸術を全国・世界に普及させる諸活動を行っている。



小林武人

東京工科大学のクリエイティブルーバゴンゾで研鑽を積み、3DCGやアニメーションを自在に操る表現者となる。彫刻やアニメーションを通じて「感情」「エネルギー」など無形のものを形にし、多彩な作品を生み出している。シンガポールの制作会社「METAMO Industries」創設メンバーとしても活動し、東南アジアと日本をつなぐ文化的架け橋として、革新的な表現を発信し続けている。



中山裕那

北九州市生まれ、岡山在住。縄文創作家  
2012年から「祈りのかたち」をテーマとし人の心に寄り添う作品を志し、お地蔵様やシーサー等を制作。2014年縄文造形家・猪風來の縄文造形と縄文野焼きに感動し、以来、猪風來美術館に通い縄文土偶の創作を続ける。2019年猪風來美術館企画展『縄文土器と土偶二人展・萌えたついのち 祈りのかたち』開催。



小野真由美

岡山県生まれ 縄文土器作家  
2015年春の縄文野焼きで大地と炎の子宮を目の前にして、縄文に目覚め、魂の声思いを実現する為、猪風來の教えを受けながらひたすら作り続ける。2018年に猪風來美術館で初の個展「小野真由美縄文土器展 大好きな縄文」開催。現在大山・岡山を拠点に創作活動・個展・縄文煮炊を行っている。



堀江武史

國學院大學文学部卒業。文化財修復、「アートと考古学」の企画を手掛ける府中工房主宰。企画はVaison-la-Romaine, France 2025、個展は浅間縄文ミュージアム2019、出展は国立民族学博物館2021。単著『縄文人の石ひろい 美は生きていくための喜びという糧』(aesthetics editions,france, 2025)、共著『縄文の断片から見えてくる修復家と人類学者が探る修復の迷宮』(古小鳥舎, 2023)。



北村ますみ

愛媛県宇和島市出身 福山市在住。  
縄文作家 2017年1月初めて猪風來美術館を訪れ土器をつくる。猪風來美術館の取組に感銘を受けながら、心惹かれる土器や土偶づくり。「次、何つくろうか」と、いつも考えている。  
「縄文土器って、まさに現代アート」



兵頭百華

1999年岡山県倉敷市生まれ・在住、  
縄文アーティスト 2019年7月に猪風來美術館にて以前から興味のあった縄文土器作りを体験する。縄文時代の女性のすべてのものへの慈愛と敬意の念が表されたいのちの器である縄文土器。実際自分が作ることでよりその表現の奥深さに魅了されている。



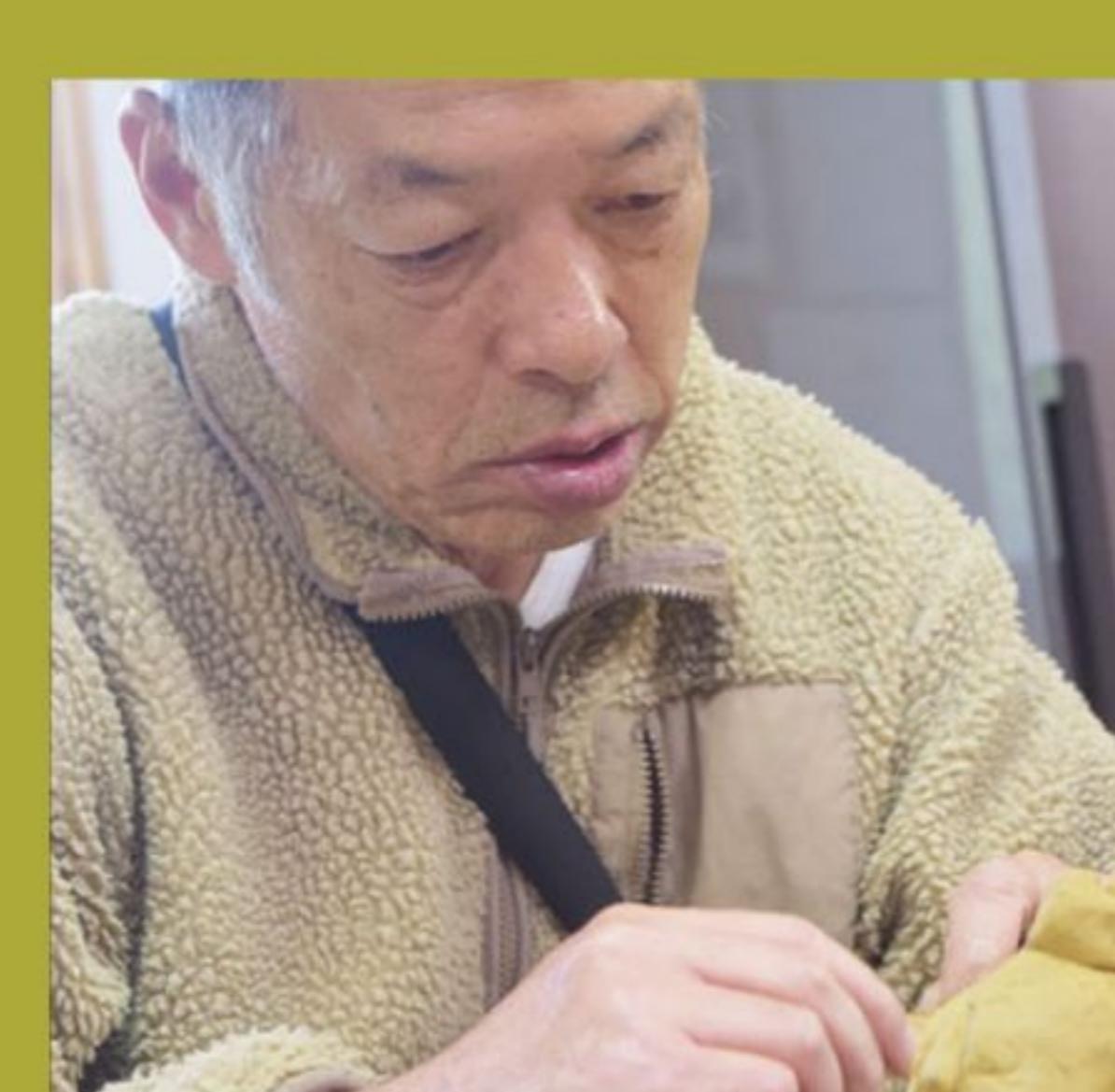
さかいひろこ

縄文まんが家・イラストレーター  
縄文をイチから探ろうと1992年ごろ E.S.モースの漫画を描きはじめる。  
縄文貝塚の宝庫・霞ヶ浦のほとりに暮らし、現在は茨城県内の土偶(44市町村の代表選手)を搜索中。



黒田知恵

広島県出身、倉敷市在住。薬剤師。  
植物療法の学びを通して鍊金術やシャーマニズムに触れ、人と自然とのつながりを体感していく中で縄文土器に巡り会い、土器の美しさに魅了される。現在土器作りをしながら、縄文の世界観を学び中。作品に命が吹き込まれていぐ野焼きが大好きです！



磯田耕治

1960年新見市大佐出身・在住  
縄文の土をひねると楽しいしが晴れる。縄文のものは自然の匂いがする。畑からマガタマが出たが、大佐山にはヒスイの原石があるのでそれで作ったものかも。山菜採りや夏には投網でアユやアマゴをとるのも楽しい。我を忘れて土偶を作るのが面白い。自由でいい。2013年から始めて12年目になる。



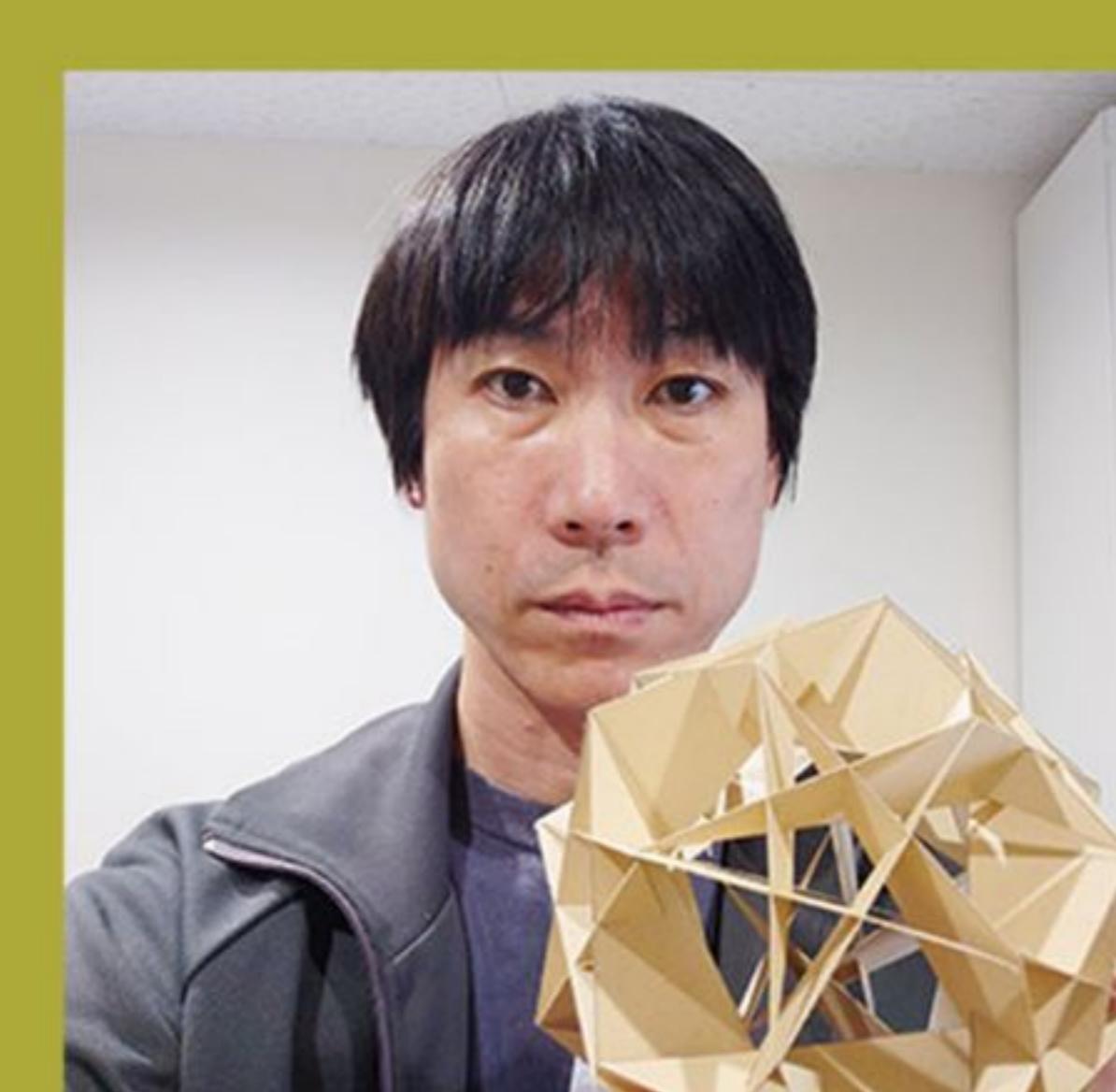
真世土マウ

メキシコ出身、日本国籍。金沢美大大学院修了。現在、岡山県立大学教授。2000年第8回日本現代陶彫展、陶彫賞。2003年メキシコ National Ceramic Competition, 陶彫部門優勝。古代アンデスの笛吹きボトルの再現・創作など。2023年猪風來美術館企画展「土器たちが語るもの」に出品。



大槻順一郎

1949年京都府生まれ 21歳でカナダに渡り永住権を取得。30歳世界中をバックパッキングし建物と植物・昆虫を画く。㈱アクリシス創業。63歳「ネパールの美しい村に図書館を」10年で10館作る。68歳スケッチをしながら自転車でスペイン巡礼の道を走破。縄文に興味沸く。72歳銅版画を始める。ベトナムバイク旅。75歳赤磐市に「子ども図書館ほたる」開館。



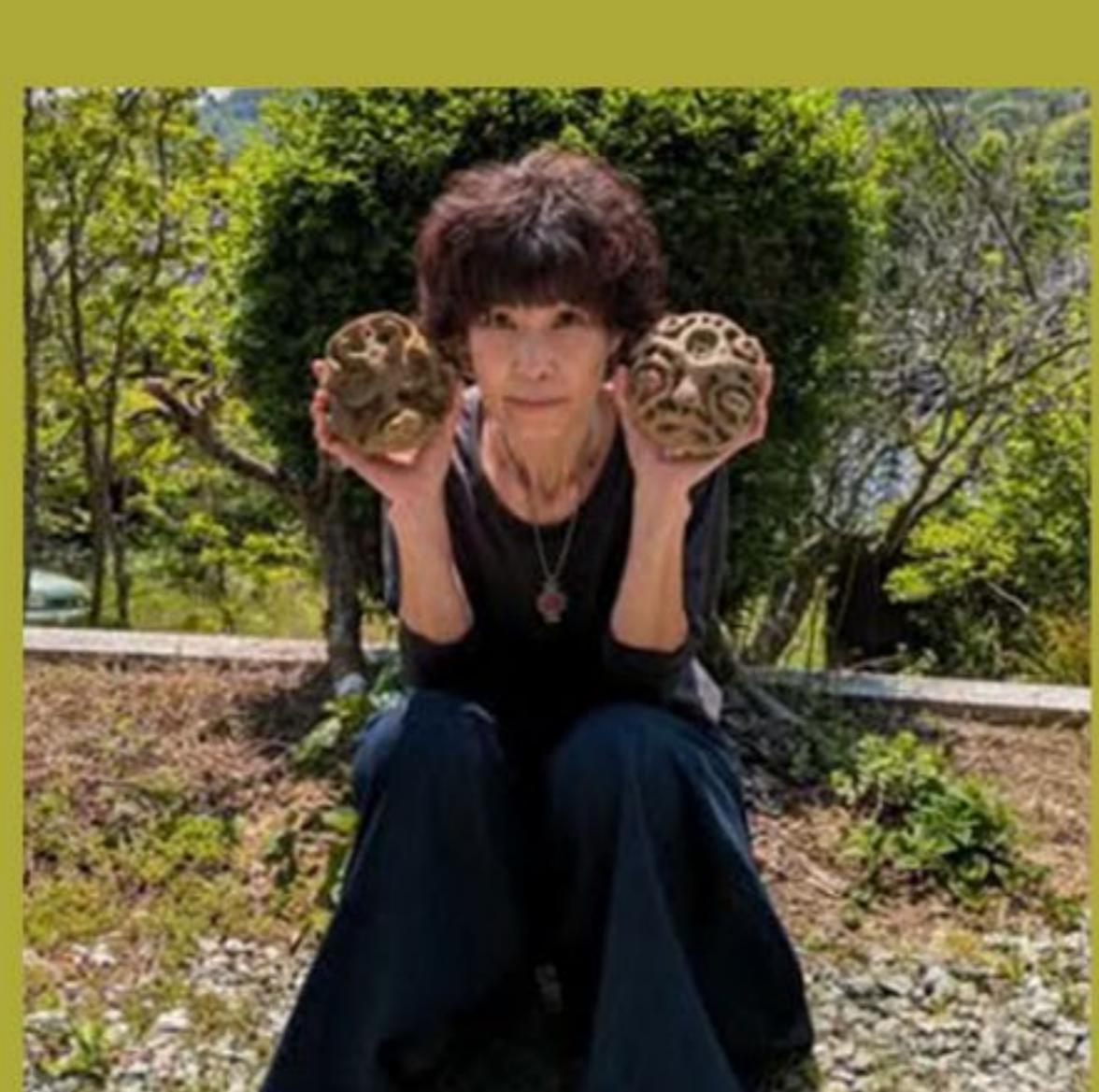
向井宏志

多面体デザイナー。積み木、ランプシェードのデザインや5重の菱形十二面体折り畳み構造などを発表する。岡山市奉還町ラウンジカドにて不定期に多面体工作ワークショップを開催中。2022年から始まる猪風來縄文文様デザインシリーズで、テキスタイルのデータ化に関わる。



谷本明久

岡山県高梁市出身・在住、画家。  
昭和9年10月8日生まれ  
独立美術协会会友 画歴 53年  
日本美術家連盟会員  
岡山県美術家協会会員 県展委嘱  
近年は縄文をテーマとして、筆のかわりに「縄」そのものを画具とした油彩画を制作している。



松本千夏

1972年大阪生まれ、高梁市在住。  
2013年の猪風來美術館縄文野焼きに感銘を受け縄文スピリットを学び始める。燃え盛る炎や誕生した土器たちから感じるアニミズム・トーテミズム・シャーマニズムを探究し続け表現活動を広げる。点描画、ベンガラ染絵制作や現在は放牧民のアフガン絨毯の手法による独自の織物にも挑戦中。



むらかみよしこ

岩手県久慈市出身、新見市在住。  
染織作家。1988年北海道時代に羊毛を使って手紡ぎ・草木染・手織りを始め、綴織の技法でタペストリー作品を制作。母なる大地が生み出したすべての生命の豊饒を祈る縄文の世界観のもと、時空を超えた生死再生する生命の円環を表現。織作品の絵柄で手作り創作絵本も。